

祝 奄美群島日本復帰65周年



【1953年8月9日 ダレス声明に感謝する郡民大会（名瀬小学校校庭）】

日本復帰の歌

作詞 久野藤盛

作曲 静 忠義

一 太平洋の潮音は

わが同胞の血の叫び

平和と自由をしいたいつつ

起てる民族二十万

烈々祈る大悲願

二

われらは日本民族の誇りと歴史を高く持し

信託統治反対の

大スローガンの旗の下

断乎と示す鉄の意志

三

目指す世界の大理想

民族自決独立の

われらが使命つらぬきて

奄美の幸と繁栄を

断乎と守らん民の手に

四

二十余万の一念は

諸島くまなく火と燃えて

日本復帰貫徹の

のろしとなりて天をやく

いざや団結死闘せん

民族危機の秋ぞ今

平成30年12月25日

日本復帰記念の日のつどい実行委員会

日本復帰運動の様子





奄美群島日本復帰65周年を迎えて

奄美市 文化財課 久 伸博



日本復帰 65 周年の今年、改めて伝えていく意味を考える

●戦争から奄美群島日本復帰までの記録をたどります

今年、奄美群島は日本復帰65周年を迎えます。当時20歳だった方は85歳になります。当時の記憶や記録が薄れていく、といった危機感を多くの方々が抱いています。

特に米軍政府統治時代は、日本人でありながら米軍に統治されるという、かつて日本が経験したことのない歴史を背負い、世界にも類例を見ない無血の復帰運動を展開して日本復帰を果たしました。

「記録に残さないものは記憶にも残らない」という言葉の通り、文化財課・奄美博物館では奄美群島の歴史や文化、自然を知る上において欠かすことのできない資料や記録を保護・保存・展示し、史実や先人の苦難や労苦、功績等を後世に残し伝える活動をしています。

当初は北緯30度線、後に29度線以南の南西諸島は、日本から行政分離されました。米軍政府統治時代の資料を見ますと、私たちの奄美群島は国境にある、国境線は揺れ動く、ということ強く意識させられます。

奄美群島の日本復帰を見直すことで、戦争について、また、行政分離、復帰運動、日本復帰、復帰後の復興・振興、そして今後・将来の奄美のことについて、改めて考えてみませんか。

今回、改めて戦争から奄美群島日本復帰までの主な記録をたどります。

奄美群島は、琉球国統治時代、薩摩藩統治時代、米軍政府統治時代、日本復帰等、非常に複雑な歴史の変遷を経てきました。

奄美群島日本復帰65周年という節目の年に、12月25日の復帰記念の日だけでなく、他の節目の日についても思いを寄せ、考え、記録から学ぶ機会となれば幸いです。

第二次世界大戦と奄美群島

昭和16年12月8日、日本は真珠湾の奇襲攻撃で米・英国に宣戦し、第二次世界大戦（太平洋戦争）が開戦しました。奄美群島の各地からも多くの方々が召集され戦死しました。各地に慰霊碑や忠魂碑が建立されています。地域や集落によって意味深い場所が選択されているものと感じます。

昭和18年頃から戦況は悪



【名瀬の「慰霊塔」】



【住用の「忠魂碑」】



【笠利の「招魂碑」】

化し、奄美近海では潜水艦

年8月22日、沖

による魚雷攻撃、爆撃機に

船「對馬丸」が

昭和18年5月、沖縄との航

十島村悪石島付

路船「嘉義丸」が喜界島

近で潜水艦の魚

雷攻撃を受けて

沈没、約1千500

を受け、6月には、鹿児

人が死亡、数日

「富山丸」が徳之島の東を

後大和村や宇検

航行中、魚雷攻撃を受け

村、瀬戸内町に

多数の遺体とわ

ずかな生存者が

が戦死しました。昭和19

漂着しました。

奄美大島の防

備体制も強化さ

れ、奄美大島の

南部を中心に奄

美守備隊が配置されます。

島尾敏雄を隊長とする第18

震洋隊もその一部隊です。

昭和20年4月、米軍が沖

縄に上陸して壮絶な地上戦

が行われました。4月20日

には名瀬の街も大空襲を受

け、市街地の90%余が消失

しました。

昭和20年7月、日本はポ



【空襲を受けた名瀬の街（昭和20年）】

二二宣言により奄美は米軍政下へ

1946年（昭和21年）

政府から身分証明書（パス

2月2日の「連合国軍書宣

ポート）を発行してもらう

言」後、3月13日に米軍政

府長官ポール・F・ライリー

少佐以下総員19名が名瀬に

上陸し、ジープで大島支庁

へ向かいました。大島支庁

で南西諸島全域に対する軍

政布告が公布され、占領行

政を公表しました。（「連合

国軍書宣言」のことを「二

二宣言」と呼んでいます。）

こうして奄美群島は、本

土と行政分離され、米軍政

府下におかれることになり

ます。

鹿児島や日本本土、ある

いは日本本土から奄美への

渡航の際には、それぞれの

人多数いたようです。



【身分証明書（米国民政府発行）】



【軍票：米軍政府下で使用していた紙幣】

米軍政下で高まる復帰への想い

1946年（昭和21年）

2月2日の「連合国書宣言」（「二・二宣言」）によつて北緯30度以南の南西諸島は行政分離されました。この北緯30度線は屋久島のすぐ南にあり、十島村は上三島（竹島、黒島、硫黄島）と下七島（口之島、中之島、平島、諏訪之瀬島、悪石島、臥蛇島、小宝島、宝

島）に分断されました。現在、上三島は三島村、下七島は十島村という行政組織になっています。

米軍政府下におかれると、鹿児島や日本本土、あるいは日本本土から奄美への渡航が自由にできなくなりました。また、米軍からの配給物資や予算配当は十分なもの、さまざまな

物資が不足し、奄美の人々は困窮していました。そのため、北緯30度線に近い口之島や中之島を拠点とした密貿易が行われたり、島づたいに「密航」という手段を使う人々もいました。

このような状況から東京奄美会が復活（昭和21年2月）、東京奄美連盟（昭和21年9月）、奄美連合全国総本部（昭和21年12月）、



【軍政下の教室】

米軍政府統治の下で昭和22年に作詞作曲された新民謡「島かげ」は、日本と行政分離・分断された哀愁や切なさ、望郷の思いを歌ったものではな

「本茶峠」や「そてつの実」等、数多くの新民謡が発表されました。

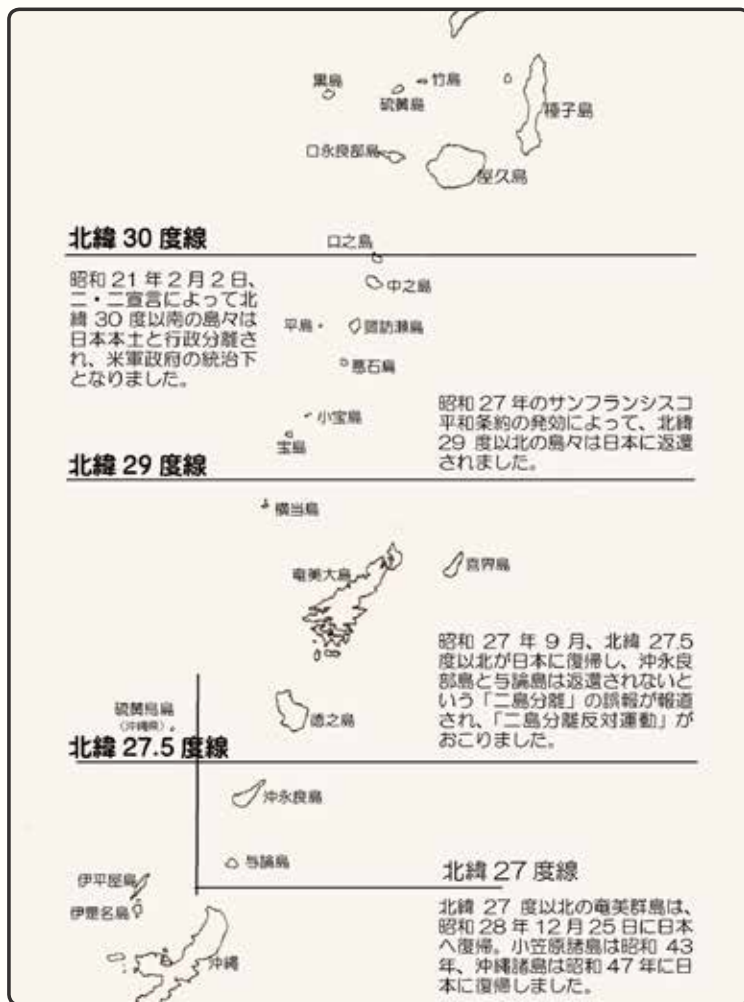
は、経済的な困窮に苦しむ群島民の士気高揚と食糧増産、勇気や希望を与える歌として多くの人々の愛唱歌となりました。他にも

また、昭和21年に大島郡相撲協会が発足し協会相撲の開催、昭和22年、奄美体育連盟が発足し奄美体育大会の開催、奄美野球連盟が

奄美青年同盟（昭和22年11月）等が次々と結成され、奄美同胞の生活救済運動が始まり、その運動は全国各地で展開されました。

昭和25年、宮崎県大島町において復帰街頭運動が始まり、東京奄美学生会が発足し、奄美大島の日本復帰と渡航の自由を訴える街頭署名運動が展開されました。

奄美群島内では本格的な復帰運動の高まりはまだ出てきませんでしたが、群島民に希望や元気を与えようとした動きが出てきました。



【本茶峠の碑】
（本茶峠）



【農村小唄の碑】
（宇検村）



【相撲に熱狂する人々】

発足し野球大会の開催等、スポーツの世界においても群島民に活気と希望を与える活動が行われました。

昭和25年6月、ダレス国務長官が来日し、対日講和条約の動きが出て、翌年の1月、ダレス国務長官を団長とする対日講和使節団が来日、日本政府との間で講和条約の交渉が始まります。

奄美群島の日本復帰の期待が一段と高まり、昭和26年2月14日、名瀬市内に32の団体が集まり、「奄美大島日本復帰協議会」が発足、泉芳朗が議長に就任、



【復帰運動の様子】

本格的な復帰運動が始まります。復帰協議会発足と同時に署名運動が始まりました。郡島内各地に復帰協議会支部が結成され、署名運動も広がりを見せました。4月には14歳以上の郡島民の99.8%が署名したといわれています。

その署名簿は複数部作成され、対日理事会や吉田茂首相、外務省等へ請願書とともに提出されました。

しかし、講和条約の草案の第3条に、奄美と沖縄を分離するという条項が盛り込まれていることが判明すると、「条約第三条撤回」と呼んでいます。

「廃」や「信託統治絶対反対」を求める運動も展開されました。

昭和26年7月13日、第一回名瀬市民総決起大会が名瀬小学校の校庭で開催されました。多数の市民が名瀬小学校の校庭に「完全日本復帰貫徹」や「条約第三条撤廃」、「信託統治絶対反対」等のプラカードやのぼり旗を持って集まったため、米軍政府から中止命令が出されましたが、話し合いの結果、撤去や規制を条件に大会は開催されました。この事件を「プラカード事件」と呼んでいます。

奄美群島が日本に復帰するまで27回もの集会が開催されました。7月19日の第一回日本復帰郡民総決起大会では、復帰協議会が公募して入選した「日本復帰の歌」が発表されました。また、昭和22年4月1日に結成された「奄美体育連盟」も復帰運動の一環として郡島民に希望と勇気を与えよ



【プラカード事件】

うと「奄美体育の歌」を公募、発表しました。

奄美群島が日本に復帰するまで開催された集会では、名瀬小学校の校庭正面の石段が復帰を願い訴える演説等を行う場所として使用され、復帰運動の象徴として存在しています。

名瀬小学校では、先人に学ぶ意味合いから「石段に

学ぶ」を校訓として、児童への継承活動を図っています。

また、復帰50周年を迎えた平成15年には、石段の上部に「日本復帰祈願の歌」の歌詞を入れた「奄美群島日本復帰運動発祥の地」の石碑が建立され、復帰60周年を迎えた平成25年には、「名瀬小学校校庭の石段」を奄美市指定文化財と定め、奄美群島の日本復帰における貴重なシンボルとして位置づけ、石段の保存とともに復帰運動の継承に役立てていくという取組が行われています。



【名瀬小学校の石碑】



【現在の名瀬小学校】



【平成29年度日本復帰記念の日のつどい】



【昭和27（1952）年4月28日 奄美群島の日本復帰を求める学童大会（名瀬小学校校庭）】

復帰を目指し団結する奄美

昭和26年9月8日、対日講和条約が調印されます。この講和条約第三條の中に「信託統治」の条項があり、「信託統治絶対反対」の運動が展開されます。

昭和27年4月1日、「奄美群島政府」を廃止して「琉球政府」が発足します。行政府の名称は度々変更します。昭和21年10月から「臨時北部南西諸島政庁」、

昭和25年7月から「北部南西諸島政庁」、同年11月から「奄美群島政府」、昭和27年4月から「琉球政府」、同年9月から復帰まで「琉球政府奄美地方庁」となります。

「琉球政府」となった昭和27年4月1日、「大島女子高校」内に「琉球大学大島分校」が設置されます。

同年4月、名瀬小学校校庭で開催された集会で、泉芳朗が「日の丸」を両手に持って演説をしたところ、米軍政府に連行されるとい

う事件が発生します。この事件を「日の丸」事件と呼んでいます。日本から行政分離され、米軍の統治下に置かれおり、「日の丸」を掲揚してはいけない、という規則に触れたということでしたが、泉芳朗は「掲揚してはいけない、両手で持つただけだ。」と反論、釈放されたという逸話が残っています。



【「日の丸」事件】

昭和27年4月28日 対日講和条約（サンフランシスコ講和条約）が発効され、連合国による日本国の占領統治が終了、日本国の主権が回復しました。トカラ列島（大島郡十島村）は日本に返還されましたが、北緯

29度以南の南西諸島は米軍政府の施政権下におかれました。奄美群島ではこの日を「痛恨の日」、沖縄では「屈辱の日」としました。

この日に書かれた名瀬中学校の生徒の作文が奄美博物館に保管されています。日本が占領地化されず、主権が回復した喜びと、奄美が日本に返還されなかった悲しみ、いつかは日本への返還が実現するという期待、複雑な心境を綴った作文です。

同年8月1日、泉芳朗は高千穂神社で日本復帰を祈願した断食を5日間実施しました。この泉芳朗の断食による復帰運動は、郡島民にも広がっていきました。

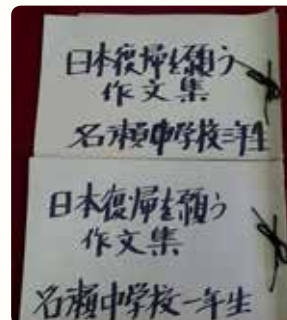
しかし、同年9月29日、日本復帰から沖永良部島と与論島が切り離される「二島分離」の報道があり、「二島分離反対」の運動が行われました。この報道は誤報道だったということが後に判明します。



【二島分離反対署名簿】



【日本復帰断食祈願】



【日本復帰を願う作文】
（名瀬中学校）

施政権の返還は「北緯27度半以北」という報道から、沖永良部島と与論島が切り離される「二島分離説」が浮上、「二島分離反対」運動が活発になりました。

昭和27年10月11日、沖永良部高校に全島の児童生徒が自主的に集まり「学徒日本復帰協議会」を結成、復帰実現まで断食闘争をすることを決議しました。また、「われらを日本へ帰せ」という血の寄せ書きも行われました。

休業、24時間断食を執行、「条約第三条撤廃、完全日本復帰運動を勝利の日まで続行」と宣言、「民族分離絶対反対」等のプラカード、沖永良部・与論連絡会等ののぼりが校庭を埋めつくし、約一万人が集まったといわれています。

重成知事が登壇、「わが大島の親愛なる郡民のみなさん」と呼びかけて演説を行い、提灯の波と鳴り止まない拍手に包まれました。現職の県知事による「わが大島の」という言葉が、大勢の群集に大きな感動を与えました。

昭和27年10月23日、重成格・鹿児島県知事が復帰の方策等を調査するために来島、到着の名瀬港をはじめ奄美地方庁までの沿道は、「歓迎・重成知事」や「即時鹿児島県大島郡復活」等のプラカード、大勢の群衆で埋まりました。その日の夜、名瀬小学校校庭で開催された「歓迎復帰郡民大会」で

翌日の帰路の際、「母国復帰の悲願がいかに切実な血の叫びであるか、目の当たりにした。私はみなさんの民族的な悲願を達成するために、いかに努力すべきか、固い覚悟を決めている。全智全力を挙げてみなさんの期待に沿うべく努力する」と記者団に語りました。

昭和27年10月24日、外務省から南方連絡局名瀬出張所に、「二島分離返還の否定」との連絡が入り、「北緯27度半以北が返還」や「二島分離」が誤報道とわかりました。

訴えたり、鹿児島島の奄美人会に出席して復帰促進の報告会等を行い、2月26日帰島します。

婦人会長と橋口初枝・副会長が面談陳情しました。大島直治・北九州外語大学学長がその通訳を行いました。

議長や幹部達は高千穂神社に感謝の参拝をし、奄美大島各地で八月踊りや提灯行列が繰り広げられました。

昭和28年5月31日、重成格・鹿児島県知事は伊東隆治奄美連合副委員長と共に、来日中のルーズベルト大統領夫人と会見陳情します。

昭和28年8月8日、米国と韓国の共同防衛条約の締結後、韓国から帰る途中東京に立ち寄ったダレス米国务務長官が「奄美群島を日本に返還する」旨の声明を発表、午後8時頃奄美の新聞社がその情報入手、号外ニュースとして各地に知らせます。

翌日の新聞は大きな見出しでこの「ダレス声明」を報道しました。8月9日の夜には、「ダレス声明感謝郡民大会」が名瀬小学校の校庭で開催され、一万五千人もの市民が提灯や感謝のプラカード、のぼり等を持って詰めかけました。他町村でも同様の集会が行われました。



【重成知事歓迎の様子】

昭和27年10月24日、外務省から南方連絡局名瀬出張所に、「二島分離返還の否定」との連絡が入り、「北緯27度半以北が返還」や「二島分離」が誤報道とわかりました。



【ダレス声明感謝郡民大会（名瀬小学校校庭）】



【ダレス声明に感謝する提灯行列】

8月11日、米国大使館が「奄美群島の返還は、旧鹿児島県大島郡の全域である」旨について述べると、「二島分離説」に揺れ動いた沖永良部・与論島の住民は、大きな喜びに沸きました。

「ダレス声明」後、大島復興対策本部の発足、各種調査団が来島して復帰に向けた準備が進められました。琉球米国民政府副長官のダ



【オグデン校舎建築のプレート（伊津部小学校）】

ビッド・A・D・オグデン少将は、粗末な校舎で学ぶ子どもたちのために琉球政府予算の獲得に尽力、コンクリートブロック2階建校舎を復帰のプレゼントとして建築しました。「オグデン校舎」と呼ばれ、復帰後も校舎建築のモデルとされました。建築記念のプレートが伊津部小学校の敷地内に残っています。

しかし、復帰の日の時期が明言されていなかったため、郡島民には苛立ちもありました。12月1日の復帰を求める集会や学童の集団断食も行われました。12月になってようやく「12月25日返還」ということが決まります。

12月24日の夕方、日米間で奄美群島返還協定に調印が行われました。奄美大島では、奄美地方庁の廃庁式が行われました。奄美群島返還協定の調印に際してダレス米国国務長官は、「極東の脅威と緊張が続く限り、沖縄・小笠原の両島を保持

する」と言明しました。（小笠原諸島は昭和43年、沖縄諸島は昭和47年に日本復帰をします。）

12月25日午前0時、奄美群島の日本復帰が実現しました。復帰を迎えた瞬間、高千穂神社の太鼓が打ち鳴らされ、祝砲が鳴り、「万歳万歳」の歓声がおこり、「君が代」の放送が流れ、高千穂神社の社殿には関係者が集まり、復帰の感謝報告祭が行われました。

また、重成格・鹿児島県知事や上田太郎・大島支庁長が名瀬入りし、奄美群島の返還式、大島支庁の開庁式、祝賀式典、夜には提灯行列等が行われました。各種祝賀行事が3日間繰り広げられました。復帰と同時に、B円と日本の円との交換も行われました。

奄美群島の日本復帰は、米国と旧ソ連との関係、朝鮮半島や東アジア諸国の政治状況なども大きく影響したのもありますが、郡島民をはじめ、全国各地の奄

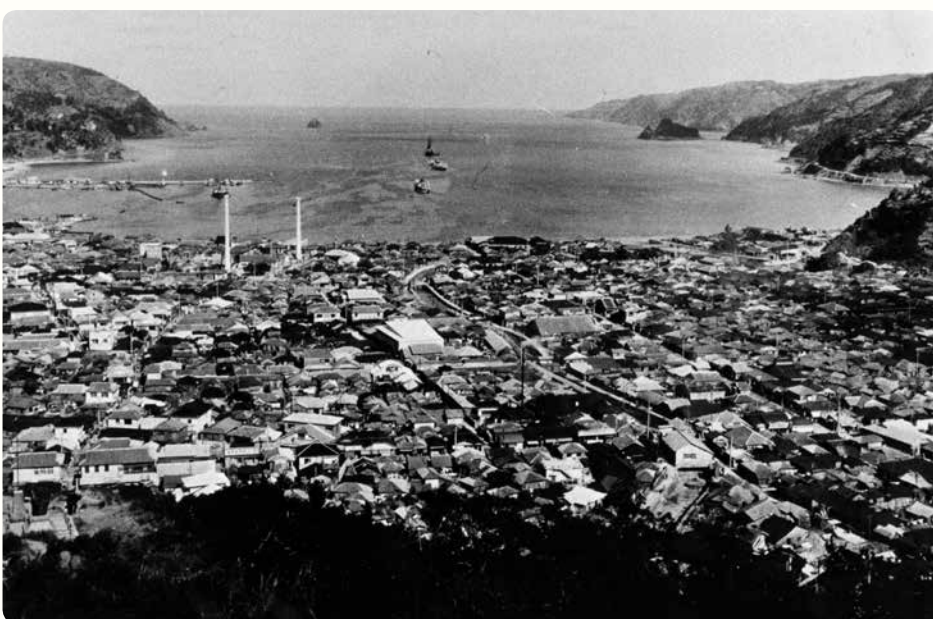
美出身者達が一丸となった組織的な署名活動や断食活動等、「非暴力」や「無血」の復帰運動の展開は、世界的にも類例を見ない活動として高く評価できるものです。

昭和29年6月、「奄美群島復興特別措置法」が制定され、復興事業や振興事業、振興開発事業等が導入され、日本本土との格差是正や沖縄振興開発計画との均衡、奄美群島の自立的な発展と福祉の向上を目的に、各分野の基盤整備の事業が展開されてきました。

これまでの社会基盤整備事業等によって、自立的な発展を支える基礎的な条件が整備され、振興開発事業として、これまでの基盤整備の継続をしながら、奄美群島の特性を活かした産業・観光・文化の振興や人材育成、情報発信の事業に取り組み動きも現れてきています。

先人たちの苦勞と努力で街並みや地域の風景、生活様式は大きく変化し、便利

になりました。子どもたちの学習環境も目を見張るものがあり、学力や進学率も大幅に向上しました。その一方で、過疎化や少子高齢化、限界集落に近い状況が数多く見受けられます。復帰運動当時二十万郡民といわれていましたが、現在は約半数になっています。年月と共に人の記憶は薄れていくものですが、記録は残ります。その記録から学ぶためにも、先人の歴史や文化、苦難や労苦、功績等を文字や音声、映像等を駆使し、後世に残しておくたいものです。



【復帰当時の名瀬】



【復帰運動の様子（高千穂神社）】



【昭和28年12月25日 奄美群島日本復帰祝賀飛行】



【復帰の喜びに沸く島民】

日本復帰に関連する主な出来事

昭和16年 (1941)	12月	第二次世界大戦（太平洋戦争）開戦	昭和26年 (1951)	1月	ダレス国務長官を団長とする対日講和使節団が来日
昭和19年 (1944)	6月29日	「富山丸」が米軍の攻撃を受け沈没（徳之島沖）		2月14日	対日講和条約の交渉開始を契機に「奄美大島日本復帰協議会」が発足、泉芳朗が議長に就任、署名活動や断食運動等を行い、復帰運動は一気に高まる
	8月22日	集団疎開船「対馬丸」が攻撃を受け沈没			講和条約の草案の第3条に「奄美と沖縄を分離する」という条項が盛り込まれていることが判明すると、「条約第3条撤廃」を求める運動も展開
	10月	島尾敏雄「第18震洋隊」隊長として着任		7月	第1回名瀬市民総決起大会（名瀬小にて）
昭和20年 (1945)	4月	名瀬が空襲を受け、市街地の90%焼失		7月19日	第1回日本復帰郡民総決起大会（〃）
	7月	ポツダム宣言		9月9日	対日講和条約の調印
	8月6日	赤木名の防空壕に爆撃、住民40名が犠牲に	昭和27年 (1952)	4月28日	対日講和条約（サンフランシスコ講和条約）が発効、連合国による日本国の占領統治が終了し、日本国の主権が回復
	8月15日	戦争が終結（終戦記念日）			しかし、北緯29度以南の南西諸島は米軍政府の施政権下におかれた
昭和21年 (1946)	2月2日	連合軍最高司令部GHQが日本の領域に関する指令を発表	昭和28年 (1953)	8月8日	ダレス国務長官が韓国訪問の帰途に日本に立ち寄り、奄美群島を日本に返還する声明を発表
		「二・二宣言」（連合国覚書宣言）		12月24日	奄美群島の日本復帰に関する日米協定が調印、奄美地方庁廃庁式
	3月13日	大島支庁内に軍政府を設置		12月25日	奄美群島日本復帰が実現
	7月1日	名瀬市制施行（名瀬町から名瀬市となる）			奄美群島返還式、大島支庁開庁式、復帰祝賀式典、提灯行列などが行われる
	10月3日	大島支庁廃止、「臨時北部南西諸島政庁」設置	昭和29年 (1954)	1月16日	奄美大島日本復帰協議会解散式
昭和23年 (1948)	6月19日	2名の教師が教育関連図書購入のために本土へ密航		6月	「奄美群島復興特別措置法」制定
昭和24年 (1949)	4月29日	配給食料3倍値上げの方針発表			
	12月25日	昇曙夢「大奄美史」を刊行			
昭和25年 (1950)	6月	ダレス国務長官が来日、対日講和条約の動きが出てくる			
	1月11日	軍政府が食料3倍値上げを実施			
	7月1日	「北部南西諸島政府」設置			
	11月25日	「奄美群島政府」設置			

断食悲願 詩 泉芳朗

ここは北緯二十九度直下
奇妙不可解な人為の緯線が
のろわれた民族の死線に変わろうとしている
目に見えない首枷をつくろうとしている
たえがたい責苦の檻になろうとしている

されどこの土歴々やまとあまみこの国
町の奥がに厳々高千穂の杜はそびえ
大祖伝承の神域に今わたしは端坐している
仰げば脈々たる樹枝
天冲に合掌して
二十余万の民の大悲を訴えるに似ている

わたしはただ一介瘦身の無名詩人
樹間に湧く無量の感に涙しぼり
地に満つる落葉や雑草にも
無情の声を呑み
天かける白雲に
うたた民族流離の歌をきく

よしや骨肉ここに枯れ果つるとも
八月の太陽は
燦として 今 天上にある
されば 膝を曲げ 頭を垂れて
奮然 五体の祈りをこめよう
祖国帰心
五臓六腑の矢を放とう

(内容)

ここ北緯二十九度以南の奄美群島
が、戦争に破れ、二二宣言という指
令により、祖国日本から切り離され
て、アメリカの行政下におかれ、檻に
とじこめられたような苦しい時代を
むかえた。

だがこの島とは、もともと大和の
国、日本の国土であり日本人としての
長い歴史と誇りをもっている。町の奥
がには高千穂神社の森がそびえ、そ
の境内でわたしは断食をして二十余
万群民の悲願を訴えている。

わたしはやせほそつた名もない一詩
人だが神社のうっそうとした森の中
に神の声を聞き、落葉や雑草の中に
悲しい涙をくみとり、天かける白雲
に民族流離の歌をきく。

たとえこの身はこのまま枯れ果て
ていつても、八月の太陽は燦々として
天上にある。

されば膝を曲げ頭を垂れて、祖国
復帰の祈りをこめよう。

祖国へ帰るその日まで生命をかけ
て訴えつづけよう。

泉芳朗先生を偲ぶ会

会長 楠田豊春

朝はあけたり

——奄美大島日本復帰祝賀の歌——

作詞 村山 家國

作曲 山田 耕笹

一 くれなるの ころにまもり まもり来し

日のもとのほた 日のみはた

今ぞわが手に 島山の

朝はあけたり さえぎるものなく

朝はあけたり さえぎるものなく

二 やつ年を ころに凝りて よびて来し

はらからの国 日のもとよ

今ぞあきらに くにたみの

みちはとほれり あまみの島ねに

みちはとほれり あまみの島ねに

三 三千年の 国たみごころ めぐり来し

新たなる日の このおもひ

今ぞひとつに あひ起たむ

ときはいたれり 日のまるさやかに

ときはいたれり 日のまるさやかに

四 くる潮の うなばら北に さだまれる

はらからの島 さきはいは

今ぞあまみに 国たての

朝はあけたり こぞりてたたなむ

朝はあけたり こぞりてたたなむ